

2023年5月18日

アーカスプロジェクト 2023 いばらき

アーカス・リサーチ 2023

参加アーティスト決定

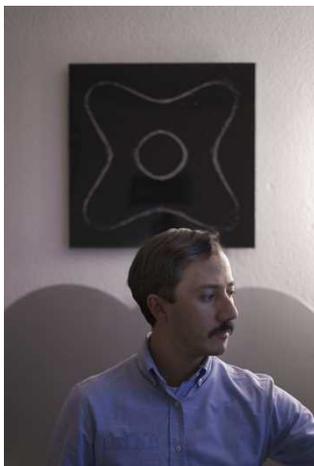
アーティストに限らずキュレーター、研究者など文化・芸術分野の実践者を対象とし、フィールドワークやリサーチにより重点を置く「アーカス・リサーチ 2023」の参加アーティスト4名がアーカススタジオで滞在制作に取り組みます。アーカス・リサーチは2022年度に開始した、国内外の幅広い世代のアーティスト、キュレーター、研究者、作家など文化・芸術分野の実践者や専門家を対象に、創造的な実験やフィールドワーク、リサーチのための時間と環境を提供する自己主導型の短期レジデンスプログラムです。東京の中心部から1時間、研究都市であるつくば市まで30分の場所に位置する守谷市にあることで、日本のアートシーンやあらゆる領域の研究施設とつながりながら、落ち着いた環境で自らの創作に打ち込むことができます。ぜひこの機会にご取材賜りたく、貴誌ならびに貴社情報媒体に掲載をしていただきたくお願い申し上げます。

アーカス・リサーチの特長

- ・ アートだけではなく、文学、演劇、音楽など、あらゆる創作ジャンルにおける表現者を対象。
- ・ 短期集中型で、今年度は各アーティストが30日間、守谷市のアーカススタジオを拠点に活動。
- ・ 今年度の参加アーティストのなかには「鬼婆」や「二口女」など日本の昔話に出てくる伝説の調査に取り組む人も。作品づくりにおけるアーティストの調査対象もユニーク。
- ・ オープンスタジオ（成果発表）はないが、アーカススタジオのオープン時には、見学可。

参加アーティスト

6月-7月滞在（30日間）レジデンス期間：2023年6月9日-7月8日



エリック=オマール・カマレナ

Eric Omar Camarena（メキシコ）

建築家、アーティスト。アメリカス・プエブラ大学で建築デザインと建築史、理論を教える。19世紀から20世紀にかけての建築史を紐解きながら、インテリアデザインと自然景観の関係を追究し、音を使った創作活動を行なっている。メキシコ芸術文化基金の支援を受け、Art OMI（ニューヨーク）や Aramauca Contemporary Arts Platform（メキシコ、チアパス）での講演や作品の発表を行っている。アーカスでは、室内における自然景観の描写をテーマにしたサウンドアート、デザインの制作のための調査を行う予定。<http://ericomarcamarena.info/>



クロエ・ヴィトン Chloe Viton (フランス)

アーティスト。人工的なモノや自然界にあるファウンドオブジェクトなどを組み合わせ、儀式や神話、夢、宇宙進化論といったテーマを題材に、彫刻やドローイング、コスチューム、インスタレーション、パフォーマンスを制作している。近年の活動には、ポンピドゥー・センター（パリ）や MO.CO.（フランス、モンペリエ）などでのパフォーマンスがある。2018年から2019年にかけて、MO.CO.のプログラムの一環で、インドとトルコのレジデンスプログラムに参加。アーカスでは「鬼婆」の伝説に着目し、福島県の安達ヶ原や、つくばの研究機関などを訪れ、睡眠と夢の関係について調査を行う予定。www.chloeviton.fr

7月-8月滞在（30日間） レジデンス期間：2023年7月11日-8月9日



レオーネ=アリックス・マゾー

Léone -Alix Mazaud (フランス)

The Center for the Sociology of Innovation (CSI)の博士候補生、研究者、アーティスト。アートや都市計画や環境学、社会科学といった、人間と非人間生存条件に着目し、領域横断的な活動を行っている。パリにある都市デザインの研究機関、PAC-STREAMの研究員であり、持続可能な自然エネルギーや環境保護に関するコンサルタントをしている。過去には、フランスの外務省が推進する《Green Embassy》プロジェクトに携わった経歴をもつ。アーカスでは、日本の都市計画を生物多様性という枠組みから調査し、都市空間デザインの実践に繋げる予定。

https://www.instagram.com/leonalex_ma/

(※閲覧にはInstagramアカウントの登録が必要です。)



ノエミエ・ソウラ Noemie Soula (英国 / フランス)

アーティスト、研究者。シェフィールド・ハラム大学理学部（英国）リサーチアシスタント。バイオテクノロジーと遺伝学、人間と非人間の関係を軸に、科学者とのコラボレーションによるリサーチをベースに、写真と映像を組み合わせた作品を制作している。近年は汚染物質やウイルスが、人体と社会に及ぼす影響に焦点をあて、Epidermotopia（パリ）や NEW NOW（ドイツ、エッセン）、Giudecca Art District（ヴェネツィア）などで展示やレクチャーを行う。アーカスでは、夫の欲が原因で妖怪になった「二口女」を題材としたプロジェクト《Becoming Futakuchi-Onna》のための調査に取り組み、民話と現代社会との繋がりを探るとともに、現代の女性性を考察する。

プログラム詳細：<https://www.arcus-project.com/residence-program/arcus-research/>

同時期にエクスチェンジ・レジデンシー・プログラムを開催！

アーカス・リサーチと同時期にエクスチェンジ・レジデンシー・プログラムにて招聘する韓国拠点のアーティスト・コレクティブ、Rice Brewing Sisters Clubもアーカス・スタジオで滞在制作を行います。

※エクスチェンジ・レジデンシー・プログラムについては別紙のプレスリリースをご参照ください。

レジデンス期間：2023年6月9日-8月9日

Rice Brewing Sisters Club

ソン・ヘミンとリュ・ソユンによるアーティスト・コレクティブ、Rice Brewing Sisters Club (RBSC) は、芸術表現の形式として「社会的な発酵」のプロセスを探るという二人の共通する関心に基づき、2018年に設立された。ビジュアルアートからパフォーマンス、クリエイティブ・ライティング、オーラルヒストリー、エコロジー的思考、おばあちゃんの知恵までを網羅した参加型の実践を通じて、相乗的なネットワークの構築を目指し、未来に向けて共有するビジョンを人々とともに創っている。アーカスでは、2021年に釜山で始まった「Sea Plants, Bare Hands, Entangled Gaetbawi」という、寒天、海女、海辺のシャーマニズムの実践、韓国と日本から太平洋への移動経路に焦点を当てたプロジェクトに取り組む。

<https://www.instagram.com/ricebrewingsistersclub/>

(※閲覧にはInstagramアカウントの登録が必要です。)



[主な展示・活動歴]

2022 釜山ビエンナーレ：We, on the Rising Wave、釜山現代美術館、韓国

2022 「Hackers, Makers, Thinkers: Collective Experiments in Social Fermenting」 Art Laboratory Berlin、ドイツ

2021 第13回光州ビエンナーレ パブリックプログラム「Kkureomi: Unboxing with the Sisters」光州、韓国

2020- 「Soil-Soil Land」安城市の農園、韓国

エクスチェンジ・レジデンシー・プログラムとは

2017年度より開始した海外の団体との協働プログラム。日本のアーティストに対するキャリア形成の支援、アーティストやキュレーターの国際交流の促進を目的としています。2023年度はセマ・ナンジレジデンシー（韓国、ソウル）をパートナーに、日本のアーティスト（永田康祐）を派遣し、韓国のアーティスト（Rice Brewing Sister Club）を招聘します。<https://www.arcus-project.com/residence-program/exchange-residency-program/>

主催：アーカスプロジェクト実行委員会

認定：公益社団法人 企業メセナ協議会



お問い合わせ先：アーカススタジオ（火-金 10:00 -18:00）

〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 担当 | 恩田・藤本

TEL | 0297 - 46 - 2600 E-mail | arcus@arcus-project.com Web | www.arcus-project.com

【アーカスプロジェクト実行委員会】

茨城県政策企画部地域振興課 担当 | 鈴木・大西 TEL | 029-301-2786